

## ⑤ 家庭や地域社会との連携強化・外部人材の活用等

- 38 コミュニティ・スクール指定に対応した校務分掌の活性化  
光市立島田中学校 教頭 中村 浩
- 39 学校運営協議会、PTA と協働した「子育てキャンペーン」の実施  
山口市立德佐小学校 教頭 坂本哲彦
- 40 教職員の意識啓発と小中共同実践による家庭・地域との連携強化  
周南市立中須中学校 教頭 門田和郎
- 41 幼保・小・中連携教育の推進  
下松市立公集小学校 教頭 角野恵美子
- 42 学習習慣や生活習慣の確立に向けた地域・家庭との連携  
山陽小野田市立高千帆中学校 教頭 松岡秀樹
- 43 食を通じた地域との連携  
防府市立小野小学校 教頭 津田敬子
- 44 個人懇談の時間に保健室を保護者に開放  
下松市立公集小学校 教頭 阿波浩二
- 45 地域人材を活用した防災教育  
防府市立華西中学校 教頭 佐古俊雄
- 46 地域と連携した防犯訓練  
宇部市立恩田小学校 教頭 田中敬二
- 47 総合型地域スポーツクラブとの連携  
岩国市立由宇中学校 教頭 足達 滋
- 48 地域力を活用したキャリア教育の推進  
山口県立萩商工高等学校 教頭 清水広介



## 38 コミュニティ・スクール指定に対応した 校務分掌の活性化

光市立島田中学校

### 取組の趣旨

- コミュニティ・スクール（以下CS）指定にともない、校務分掌を学校運営協議会の各部会に対応させることにした。各分掌の主任が部会に参加し、地域と協働する活動の企画・立案・運営を担うこととなった。その結果、各分掌の主任は地域からの信頼を得ると同時に、校内においても学校経営の視点に立った取組を行うようになってきた。
- CSとしての必須条件である「開かれた学校」をめざし、さまざまな場面で学校情報を発信する組織としての学校像の意識づけが高まってきた。

### 具体的取組

#### 1 コミュニティ・スクール指定に対応した校内分掌づくり

CS指定に伴って年度当初に校務分掌組織を改編した。本校のCSは「知を育む」「心を豊かにする」「体を鍛える」「情報を発信する」の4部会に分かれており、部会は保護者、地域住民、教職員の6名前後で構成されている。これを校内分掌組織に当てはめ、教職員全員が分掌の関係でどれかの部会に所属し、主任が部会に代表として参加している。

#### 2 地域と協働する活動と校内分掌の活性化

「体を鍛える部会」では校区内の4公民館が主催するナイトウォーク＝「チャレンジ完歩」への積極的な参加に取り組むこととなった。今年度よりCSの一環として、担当教員が企画や運営に参画し、学校代表として地域との交流の窓口となって活躍した。

また、「心を磨く部会」の担当教員は校外でのボランティア清掃を企画する一方で、校内の「花いっぱい運動」に着手した。生徒会執行部や美化委員会を中心に学校の斜面の草刈、コスモスの花植を行い、ランドマークとしての数百のコスモスで斜面を飾った。このように地域との繋がりが深まり、それに伴って校務分掌の活性化が図られている。

#### 3 発信組織として学校づくりへの意識の高揚

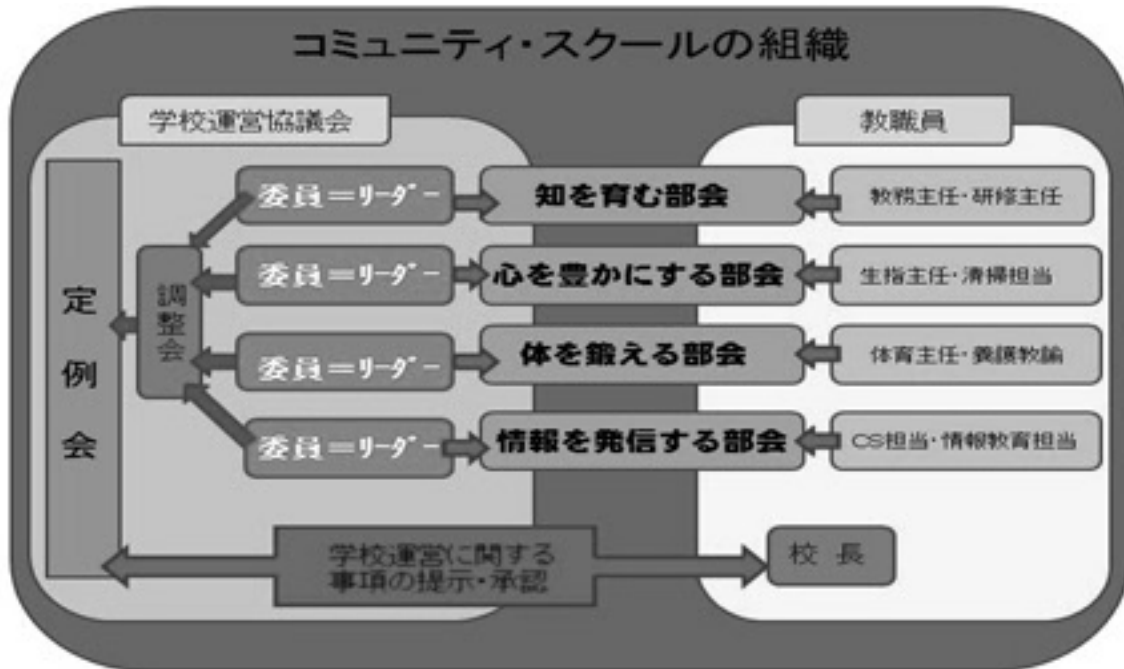
「情報を発信する部会」では従来から発行している「学校だより」に加えて、CSに特化した「しまた愛ランド通信」も発行することとなった。なお、生徒会によりマスコットキャラクターが愛称「シマッピー」と決定されたので、学校の様々な場所への掲示やFAX送信票への使用を通して、CSの学校・地域への浸透・発信を図っているところである。

### 取組の成果

- CSの活動に呼応した校務分掌組織において、例えば「心を豊かにする部会」では昨年度試行した地域へ出向いての清掃ボランティアから、今年度は「全校花いっぱい運動」として発展している。外へ向けたベクトルが校内へも良い影響をもたらしている。
- 地域との連携・協働の土台となる「開かれた学校づくり」に向けて、学校の諸活動を記録し、生徒だけでなく保護者や地域に向けて発信していこうとする取組が定着した。

# 参考資料

## 資料① CSに対応した校内分掌組織



## 資料② さまざまな情報発信

体育祭で人文字となった「シマッピー」



CS日より「しまた愛ランド通信」



コスモスが咲いた斜面とシンボルマーク



## 39 学校運営協議会、PTAと協働した 「子育てキャンペーン」の実施

山口市立德佐小学校

### 取組の趣旨

- 【情報発信・共有】学校の総合力を向上させ、「地域とともにある活力に満ちた学校」を実現するためには、学校運営協議会の取組の質を高めながら、保護者や地域住民に対して、学校運営協議会やPTAの取組、学校の教育活動を繰り返し知らせたり、学校に足を運んでいただいたりすることで、必要な情報を発信・共有することが重要である。
- 【連携・協働実践】また、学校支援ボランティアを積極的に活用し、学力の向上等を図るとともに、学校、学校運営協議会、PTA、地域が連携・協働した実践を推進することが重要である。とりわけ、児童や地域の実態を踏まえ、協働して「保護者の子育て支援」や「校内における地域の文化行事（ピアノコンサート等）開催」に取り組んでいる。

### 具体的取組

#### 5つのテーマ

- ①いい学習習慣は一生の宝 ②早ね、早おき、朝ごはん
- ③家族で楽しもう、家読 ④ルールマナーはみんなで守る
- ⑤ノーテレビ・ノーゲーム

#### 1 キャンペーン企画と推進、評価の取組

- (1) 学校、学校運営協議会、PTAにより、年間 5つのテーマを設定  
学校運営協議会委員にPTA関係者を一人増やし、双方の連携を強化するとともに、子育て支援に係る重点取組事項を5つ選定した。それを「子どもの笑顔・元気がいっぱいキャンペーン～5つのキャッチフレーズで進める徳佐小プロジェクト」として実施することとした。
- (2) 事務局によるチラシや付録の作成  
学校支援地域本部事業を活用し、キャッチフレーズごとにカラーのチラシを作成・配布した。内容に応じて、取組カードなどの具体的な付録を作成し、活用を図った。
- (3) PTA生活文化部による具体的なアイデア紹介と取組評価の実施  
各家庭における取組状況の把握を行い、よりよいキャンペーン展開の方策を探っている。

#### 2 キャンペーン実施の発信・共有の取組

- (1) 保護者・地域住民の理解促進の取組  
家族・地域参観日（年2回）、学校開放週間（年3回）、3学年ずつ時間帯を分けた二部制の学級懇談（年3回）等を開催し、キャンペーン実施も含めて情報発信や共有を推進する。
- (2) コミュニティ・スクール便り「高原の風」による情報発信・共有の取組  
年4回の学校運営協議会の内容を中心に、キャンペーンの実施、学校ボランティア（やまぐち教育応援団、路傍塾等）の取組などを自治会での回覧、学校Web掲載を通じて発信する。

#### 3 キャンペーン活動を膨らませる取組

- (1) 教育会の地域活性化奨励事業として「保護者、地域が手を携え広げるみずぐの心」の展開
- (2) 学校支援地域本部事業による地域関係団体、住民、保護者が学習を支える取組の充実
- (3) PTA生活文化部による「家庭の元気応援出前講座（県教委）」の開催
- (4) 学校の「生活チェック（年3回、1回5日間、睡眠、食事、テレビ等多項目調査）」の実施
- (5) 5・6年生の放課後における補充学習を中心とした「学力向上プログラム」の推進

### 取組の成果

- 学校の総合力を向上する上で、従来よりも一層学校を開くことや相互交流をすることが有効であった。また、そのことが、「子育てキャンペーン」の推進を支えている。
- 子育て支援等の具体的な取組を実施することは、よりよい子どもを育てるというねらいの達成に加え、実施主体である学校、学校運営協議会、PTA、地域関係団体等の連携を強めることにも効果を発揮している。
- 組織同士はもとより、教職員と保護者、地域住民個々のつながりが深まっている。

# 参考資料

## 資料① 学校開放週間チラシ

徳佐小学校の保護者の皆様  
第2回学校開放週間のご案内

**学校にお越し下さい**  
**授業を見て下さい**

22日(木) 17:00 植野中心の交流学習室がある。  
21日(水) 9:25 0分 校内持来式です。 ※日曜は学校休日で告知させていただきます。

## 資料② コミュニティ・スクール便り

徳佐小学校の保護者の皆様へ No.18 http://www.yamaguchi-cc.jp/pt/ksaev/

**高原の風**  
平成24年12月 徳佐小学校運営協議会 (徳佐中 徳佐小学校) 徳佐中3 292番地 956-0024

～学校に地域の風を～

**第6回徳佐小学校運営協議会を開催**

去る11月20日(火)に「第6回徳佐小学校運営協議会」を開催しました。この会は、学校運営の基本方針を承認したり、教育活動などについて協議したりして、保護者や地域の意見を学校運営に反映させます。初めに持包光会長と山口市教育委員会からのあいさつの後、次の4点について協議しました。

- ① 「保護者アンケート」「児童アンケート」(10月実施)の結果について
- ② 学校の「学力向上」「いじめ防止」「教職員の働き方改善」の取組について
- ③ 学校運営協議会の取組(タイアップキャンペーン、「高原の風」など)について
- ④ 最近の子どもの様子、特に「学習にふさわしい服装の在り方」について

**子育てキャンペーン アイデアあれこれ**

「学校運営協議会と愛育会」が7月から開始した「子どもの笑顔・元気がいっぱいキャンペーン～5つのキャッチフレーズで進める徳佐や子育てプロジェクト～」の各家庭での取組(アイデア等)をご紹介します。家庭・地域での子育てを進めましょう。

<p><b>早寝・早起き・朝ご飯</b></p> <p>○必ず8:30には布団に入るようにして、その時、落ち着くように、グーッと抱きしめる時間を作っています。</p> <p>○外で遊ぶ日は、しっかり外で体を動かすと、寝れて早く寝ることができます。早く寝ると自然と早く起きることができ、朝からいろんな話をし、家族みんなで自分のできる『朝食の準備』をして、しっかり食べます。</p> <p>○朝ご飯は必ず家族一緒に食べるようにしています。</p> <p>○ご飯の時はテレビを off にしています。</p>	<p><b>いい学習習慣は一生の宝</b></p> <p>○寝たらすぐに宿題をすることにしています。</p> <p>○夕食の前に宿題、後に自主勉強をしています。</p> <p>○一緒にお風呂に入っているときに、「算数クイズ」や「漢字クイズ」をしています。</p> <p><b>家族で楽しもう!家読</b></p> <p>○寝る前に本の読み聞かせをしています。</p> <p>○図書館に行くようになって本を読む姿が見られるようになりました。</p> <p>○折り紙で虫などを折り、読んだ本の名前を書いて大きな紙に貼っています。</p>	<p><b>全体に関わる感想</b></p> <p>○家族みんなでいろいろな話をしよう心がけています。</p> <p>○子どもと一緒にチラシを見て話をしています。</p> <p><b>利用ルール・マナー</b></p> <p>ルール・マナーはみんなで守る</p>
---	--	---

キャンペーンに関する協議を積極的に保護者・地域に発信します。



キャンペーンの感想をCS便りで紹介して、機運を高めます。

## 資料③ キャンペーンチラシ及び付録

徳佐小学校運営協議会 徳佐中 7-01

**タイアップキャンペーン①**  
はやね はやおき あさごはん!

朝食を食べて元気に、みんな仲良く9日7元編!

徳佐小学校運営協議会 徳佐中 001

**タイアップ・キャンペーン②**  
いい学習習慣は一生の宝

子ども1人1冊をしよう!

1-2年生  
① 毎日30分以上  
② 朝読・夜読・読書  
③ 読書・読書

3-4年生  
① 毎日30～40分以上  
② 1-2年の学習を完成  
③ 読書、読書、読書

5-6年生  
① 毎日30～40分以上  
② 3-4年の学習を完成  
③ 読書、読書、読書

徳佐小学校運営協議会 徳佐中 001

**タイアップ・キャンペーン③**  
家族で楽しもう 家読

家族と時間を分けて

- テレビを消し
- 親子、家族一緒に
- 20分～1時間
- 好きな本をたっぷり読みましょう!

親子で読書通帳を付けてみませんか?

裏面に家族の約束を書く卓上三角柱

テレビ

ゲーム

タイアップのキャンペーン

本気でやってみよう

ルール・マナーはみんなで守る

## 取組の趣旨

- ①地域の高齢化、生徒・保護者数の急減、②学校再編の対象になっている、③教職員の在籍期間が比較的短いなどの学校や地域の実情を踏まえながら、より一層の教育の充実を図るため、学校・家庭・地域が一体となった積極的な共同の取組が求められている。
- 今年度始まった学校運営協議会の活動、学校内での教職員の意識啓発、小中連携の強化等を基盤としながら、保護者を巻き込んだ教育実践、学校・地域相互の働きかけによる取組を進めることにより、家庭・地域との新たな信頼関係の構築を目指す。

## 具体的取組

### 1 家庭・地域との連携強化についての教職員意識啓発の取組

- **校内に「地域連携・他校交流グループ」をつくり、議論**  
生徒急減対策のための最低3名からなる協議グループを4つ作り、議論する場を設定。その中で、「地域連携・他校交流グループ」を作り、協議を行う。

### 2 小中の連携を図り、学力向上の課題について保護者を巻き込んで実施する共同の取組

- **中須小・中学校で同一の重点目標・研修主題を設定**  
中須小・中学校で同一の重点目標・研修主題「自己マネジメント力の育成（児童生徒が自分自身の課題をつかみ、自分の力で切り拓く力を育てる）」を設定し、つながりのある9年間の中須教育を目指して共同で取り組む。
- **「個人別学力向上プラン」の作成・実践・検証の取組**  
特に学力向上（学習マネジメントの育成）を第一の課題とし、「個人別学力向上プラン」の作成・実践・検証（R-PDCA）を、小中の児童生徒・教員のみでなく、保護者と共同して取り組む。小中合同の校内研修会を行い、実践状況の交流を行う。

### 3 地域・保護者・小学校と共同した行事の取組

- **学校運営協議会（コミュニティ・スクール）による新たな取組**
  - ・公民館など地域諸団体の主催行事（体験学習・宿泊行事等）に児童生徒全員が参加する。
  - ・小中合同運動会において、家庭・地域参加の種目を増やし、卒業生にも参加招待する。
  - ・本校が継承している伝統芸能「杖踊り」を地域行事で披露する。（小学校児童も参加）

## 取組の成果

- 「地域連携・他校交流グループ」の議論により、教員の学校運営への参画意識が向上し、新たな地域との連携行事も生まれた。また、地域への教員側の要望の把握にも役立った。
- 「個人別学力向上プラン」の保護者を巻き込んだ取組は、保護者への学校教育方針の浸透・理解にも貢献し、継続・発展性のあるものになっている。

# 参考資料

## 生徒急減対策のための4つの協議グループ

**グループ1 組織運営・協働体制**

**グループ2 教育課程・学力向上**

**グループ3 生徒に係わる問題**

**グループ4 地域連携・他校交流**

議論した主な内容

- ・地域行事への新たな参加
- ・地域行事、学校行事の一体化
- ・他校との交流学习の実施

中須地区産業文化祭に生徒が全員参加し「杖踊り」を披露、ごみ処理のボランティアに参加



伝統芸能「杖踊り」

運動会での卒業生の招待参加、保護者・地域の参加協力

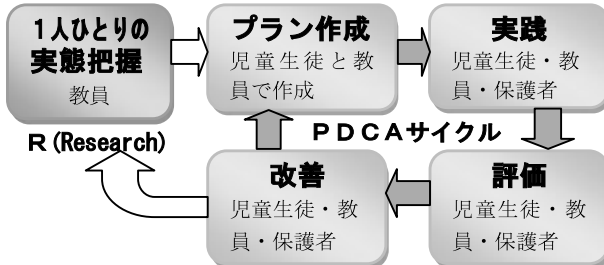
**グループ4の提案から実現した具体的な取組例**

〔他校との交流学习〕  
三学期末に他校との合同授業、生徒会活動の交流を実施（計画中）

## 小中共同実践「個人別学力向上プラン」

中須小・中学校 共通の <b>重点目標</b>	<b>自己マネジメント力の育成</b> (児童生徒が自分自身の課題をつかみ、自分の力で切り拓く力を育てる)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習マネジメント力の育成</li> <li>・生活マネジメント力の育成</li> <li>・家庭との連携</li> </ul>
-------------------------------	--	---

### 中須小・中学校の共同実践「個人別学力向上プラン」の作成



### 小中合同研修

ワークショップ型の研修会で、共同実践の成果や問題点を検討 →



中須小学校の個人別学力向上プラン例  
学級ごとに実施

プランを実践に移すための「ぐんぐん学習カード」は、1週間のサイクル



3年 [ ] 数学 学力向上プラン	
できていること	進歩の速さ(計算)、次の計算、足算、掛け算、割り算、九九の暗算(九九)
できていないこと	空欄以外、算数(計算、分数計算、小数の計算) 進歩の速さ(計算)、九九の暗算(九九) 九九の暗算(九九) 九九の暗算(九九)
できるようにしたいこと	九九の暗算(九九) 九九の暗算(九九) 九九の暗算(九九)
具体的な学習で	九九の暗算(九九) 九九の暗算(九九) 九九の暗算(九九)
振り返り	九九の暗算(九九) 九九の暗算(九九) 九九の暗算(九九)

中須中学校の個人別学力向上プラン例  
教科ごとに、定期テストのサイクルで実施

## 取組の趣旨

- 中1ギャップ、小1プロブレムの解消に向け、幼保・小・中連携の推進が求められている。連携は接続学年の小1、小6の担任だけではなく、9年間を見通して、全教職員がかかわりながら組織的・計画的に取り組むことが必要である。
- 異校種間の連携には、教職員の意識改革が不可欠である。そこで、連携体制を整え、小中共同実践項目を設定し、目標の共有、実態の共有、指導法の共有を図りながら、連携の必要性や重要性への認識を深め、協働実践を行う。

## 具体的取組

## 1 連携体制づくり

教務主任を校内推進コーディネーターとして校務分掌に位置づける。該当学年と幼保中と調整をしながら具体的な交流の計画を立てる。

## 2 連携意識の共有・協働実践

## (1) 目標の共有

- ・ 中学校区5校で小中連携教育実施計画を作成し重点目標、小中共同実践事項を決定する。教頭による小中連携協議会をもち、進捗状況について話し合う。
- ・ 連携を学校評価の項目に設定し、取り組みたい課題としてのビジョンを全教職員、保護者にはっきり示す。学校便りや学級便り等各種便りで情報発信を積極的に行う。

## (2) 実態の共有

- ・ 教職員…参観日や校内研修の機会に異校種の授業を参観し、学習や生活面の実態を把握する。参観した教員の気づきから指導に生かせる点について共有する。
- ・ 児童…中学校の授業体験・部活動体験を通して、不安の解消に努める。
- ・ 園児…ふれあい参観日の親子授業参観や、一日入学で1年生との交流活動を行う。

## (3) 指導法の共有

## 学習面

- ・ 中学校の小中連携推進教員が、週1回6年生算数科の授業を担当とTTで行う。学習内容や指導法について中学校との相違やつながりなど児童に伝える。
- ・ 出前授業では、小学校の教職員もその授業を参観する。体育の授業では、授業の様子をVTRに録画し、全校児童が見る機会を設定した。
- ・ 参観日の授業評価や校内研修への参加により気づきを話し合う。

## 生活面

- ・ 生活指導の連続性を図るために、教育相談、生徒指導協議会等で情報交換をするともに小中一貫性のある「生活のきまり」を作成し、全家庭に配布する。

**目標・実態・指導法の見える化** 取組が見えることにより連携意識・協働実践へ

## 取組の成果

- 小中共同実践事項の設定により、校内推進コーディネーターや各主任が、中学校区5校で共通認識のもと、連携した取組を推進しており、学校全体の協働体制が整ってきた。
- 授業参観や情報の共有により、卒業後の児童の姿や小学校に期待される力、課題等を知りたいとの意見が聞かれるようになり、9年間を見据えた指導への関心、意欲が高まった。



# 参考資料

取組について保護者に知らせる

## 連携教育実施計画書

校連携教育実施計画書

( 東武 ) 中学

【 連携校 】 公集小学校、花園小学校、中村小学校、栄川小学校、東武中学校		
【 担当者 】 公集小学校：教頭 花園小学校：教頭 中村小学校：教頭 栄川小学校：教頭 東武中学校：教頭		
【 重点目標 】 基本的な生活習慣の身についた、心身ともに健全な児童・生徒の育成		
【小中連携実践事項】 ＜児童・生徒＞ ①あいさつ ②靴をそろえ ③姿勢・返事（書く姿勢、聞く姿勢） ＜教 員＞ ④異校種授業参観の実施		
具 体 的 な 計 画		
小中連携実践事項に関する取組	教職員間の交流活動	児童生徒間の交流活動
1 学期	○第1回東武中学校区4校教育相談協議会での中学校の授業参観及び協議 ○5校PTA連携協議会での中学校の授業参観及び協議 ○東武中学校参観校とし、校区内の小学校を連携校として、小中連携推進委員として指名された東武中の教員が東武中や各校内研修への参加、情報交換等を実施 ○中学校で教員を講師として派遣	○「東武中学校一日体験」（授業体験・部活動体験） ○ようこそ先輩（中学生が職場体験で小学校訪問）
2 学期	○第2回東武中学校区4校教育相談協議会での中学校の授業参観及び協議 ○東武中学校参観校とし、校区内の小学校を連携校として、小中連携推進委員として指名された東武中の教員が東武中や各校内研修への参加、情報交換等を実施 ○中学校で教員を講師として派遣	○「東武中学校一日体験」（授業体験・部活動体験） ○ようこそ先輩（中学生が職場体験で小学校訪問）
3 学期	○第3回東武中学校区4校教育相談協議会での中学校の授業参観及び協議 ○小中連携推進委員での様々な情報交換や協議 ○東武中学校参観校とし、校区内の小学校を連携校として派遣	○一日入学での校内見学・先輩からのメッセージ

小中連携推進委員授業等実施記録

## 小中連携教員とのTTによる算数授業

校時	学年・級	教科	授業担当者
3校時	6年 1級	算数	先生・先生

单元名	学習支援プログラム	形態	TT
-----	-----------	----	----

【目的】  
・学習支援プログラムの内容を確実に身につける。  
【学習内容】  
・「算数 評価問題A 6年 1学期 まとめ1」の確証。  
・「算数 評価問題A 6年 1学期」の確証。



やまぐち学習支援プログラムの活用をされていました。間違えたところも確実にできるように、やり直しをしました。今回、そのやり直しの確証をさせていただきます。テストを返される時も、スムーズに返されていました。子どもたちは、返してもらった「算数 評価問題A 6年 1学期 まとめ1」や「算数 評価問題A 6年 1学期」をさっそく確認していました。解答の説明のときに、分かりやすく解説をされていたので、子どもたちも理解を深めようと真剣にきいているように思いました。全体で説明をされていたときに「中学校で、テストは、もう少しはやいですか。」というご質問を受けました。少し遅いと思います。」と答えました。このご質問を意識しながらメモをとっていたと思います。素晴らしいと感じておりますが、4月当初にお話をさせて頂いた子どもたちに伝えることで中学校への準備ができたかと思っております。

指導の中で中学校との違いを説明

# 公集小だより

7月号 H24.7.5

生き生き 公集っ子H24

## 小中連携実践について

1学期最後の月になりました。どの学年もまとめの学習に向かっているところです。さて、今月号では8月号から東武中学校区の中学校区4校（東武中、花園小、中村小、栄川小、公集小）で共通実践しております取組をお知らせします。これは、連携教育9年間を見直し意気込みをそろえて、児童・生徒の育成を目指すもので、努力して達成が可能な実践項目に絞っております。また、子どもたちの基本的な生活習慣を身につけるためには、学校と家庭が同一歩調で進まないとうまくいきません。親御をご協力のうえよろしくお願ひいたします。

- 重点目標「基本的な生活習慣の身についた、心身ともに健全な児童・生徒の育成」
- 共通実践項目
  - あいさつ  
人間関係づくりの基本です。「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」などの言葉が、きちんと相手に届くような声で言える。
  - くつそろえ  
ものを手に取ることや物を整理整頓をすることは、自分の行動に責任を持つことであり、自立への第一歩ともいえます。まず、下駄履きの靴をそろえるところから始めます。トイレットペーパーやまなごの靴も同じです。
  - 姿勢・返事  
授業中の姿勢や返事は、授業が集中する上でとても大切です。書くときの姿勢や書くときの姿勢、指名されたら「はい」という返事ができるように指導していきます。

最後に、8月の参観日には授業参観・授業評価等ありがとうございました。授業評価は、分析しこれからの授業に活かしてまいります。8月からの授業参観についてお願ひです。アテ人様会合のときにアテ人様さんから、授業参観は、子どもたちの学習の場にはお邪魔いただけありがたいとお願ひがありました。お願ひは、保護者の皆様にはお邪魔いただけありがたいとお願ひしました。しかしながら、まだ参観の場や参観の場が不足している状況の学級があります。子どもたちの学習のために、ぜひとも参観や参観までの参観については、ご協力をどうぞよろしくお願ひいたします。

校長 岩本 弘浩

小中連携教育の推進に向けて (小中連携実践事項) H24.10.29

【重点目標】 基本的な生活習慣の身についた、心身ともに健全な児童・生徒の育成  
【小中連携実践事項】 ①あいさつ ②くつをそろえ ③姿勢・返事（書く姿勢、聞く姿勢）

○小中連携実践事項について、各学年の実施状況についてお返さください。

取組内容	成果（児童の様子）	課題
あいさつ	「おはようございます、こんにちは、さようなら」の挨拶が、元気な声で聞かれました。	
くつをそろえ	「くつをそろえよう」という言葉が、子どもたちの行動につながりました。	
姿勢・返事	授業中の姿勢が、以前よりよくなりました。返事も、元気な声で聞かれました。	




5校の養護教諭が作成

# WILL

## 東武中学校授業体験・部活体験③

体験授業では、担任として、学校生活ではなかなか見ることができない授業を見ることができ、うれしく思いました。子どもたちが頑張っている姿や授業について知ることができました。この体験は、先生が優しく教えてくれたことで、みんな安心したようです。中学校へ進学する準備ができていってよかったから、うれしかったです。

体験授業（学級便りと児童の感想）



## 42 学習習慣や生活習慣の確立に向けた 地域・家庭との連携

山陽小野田市立高千帆中学校

### 取組の趣旨

- 望ましい学習習慣や生活習慣を確立するためには、地域や家庭との連携・協力が不可欠である。そこで開かれた学校づくりを行い、地域や家庭を巻き込んで、それぞれの持ち味を生かした多角的なアプローチを行って、健やかな子どもの育成を図りたいと考えている。
- 「諦めずチャレンジする生徒」を育てるため、毎日1ページ以上学習する指導を3学年一貫して行っており、学校の組織的な取組に加えて、家庭と連携して徹底を図ることによって、生徒たちの学習習慣が確立し、目的が達成できると考える。

### 具体的取組

**取組のテーマ** 学校がリーダーシップを発揮し、地域や家庭と一体となって生徒の学習習慣や生活習慣を確立することによって「諦めずチャレンジする生徒」を育成する。

#### 1 地域との連携 生活習慣の確立に向けた地区懇談会の開催

従来は地区ごとに開催していた地区懇談会ではあるが、分散することによって地域の意見を吸収しやすくなるという利点はある。しかし関係機関からの意見やアドバイスを聞く機会が少なくなるというデメリットもある。そこで、次のように改善して取り組んでいる。

- ① 会場を学校の体育館一会場にし、警察署の生活安全課長の講話等、各専門的な立場からの話を聞くことができる全体会を設ける。
- ② 全体会の後は、地区別に集まり自治会長、民生委員、更正保護女性会、保護司、みまもり隊の隊長、校区内警察交番署員の方を交えて懇談を行う。
- ③ 地区ごとに記録をとり、各地区から出た意見や要望、問題点等を明確にする。

#### 2 家庭との連携 学習習慣を確立する自主学習の取組

家庭としっかり連携を図りながら、1日1ページ、年間を通して365ページ以上学習することを徹底して指導していく。そのために次のような方法をとっている。

- ① PTA総会、入学説明会等や「校長室だより」を通して、校長が保護者に趣旨説明。家庭の理解と協力が得られるようにする。
- ② 毎朝、学級担任が自主学習帳をチェックし、提出状況を教頭に報告する。また、全校生徒の提出状況は随時保護者に連絡する。
- ③ 自主学習帳が未提出の生徒は、放課後、校長又は教頭の監督の下、学習させて提出させる。

### 取組の成果

- 保護者や地域、関係機関等を交えて情報交換を行うことにより、それぞれが協力して生徒の育成に役割を果たそうという連帯意識が生まれるとともに、課題やそれらの指導の方向性が確認できた。
- 家庭が生徒の学習習慣の確立に関心を強め、大きな役割を果たすようになった。そして生徒たちの学習に対する意欲が向上し、授業にも積極的に取り組むようになった。
- 自主学習帳を確実に提出させることにより、時間やきまりを守って生活しようという規範意識が醸成されてきた。さらに、何事にも最後まで諦めずチャレンジしようとする精神が育ってきた。

## 参考資料

### 資料1 平成24年度地区懇談会実施要領

#### 平成24年度地区懇談会の実施について

平成24年6月27日

#### 1 ねらい

同じ年代の子を持つ保護者が地区ごとに集まり、地域の方や教員も一緒になって子どもたちの成長のために、親として大人としてどうあればよいかを話し合う。

2 日 時 平成24年7月20日(金) 午後7時～9時

3 場 所 高千帆中学校 体育館アリーナ

4 参 加 者 高千帆中学校保護者、教員、来賓(校区内の警察署員、保護司、児童民生委員、更正保護女性会、自治会長の代表、みまもり隊の隊長)

#### 5 内 容

(1) 警察署から近況報告及び伝達事項

(2) 社会を明るくする運動について

(3) 学校から近況報告及び伝達事項

(4) 各地域に分かれて懇談

① 出席者紹介(自己紹介)

② 地区や通学路の危険箇所について

③ 地域や家庭生活(放課後や休日等)での問題点

④ ②、③の改善に向けての取組

⑤ 学校に対する質問、要望等

### 資料2 「自主学習帳の提出について」保護者向け説明資料

「校長室だより」に掲載された、自主学習帳による家庭学習の進め方の説明文を下に示しています。1日に1ページを年間365日学習させることを徹底して指導します。この方針に基づき、あらゆる機会を利用して保護者に説明していきました。新入生にも入学説明会で説明し、仮入学の3月21日から取り組ませました。現在では、定着も進んでおり、全校生徒528名の提出率は、99.8%(平成24年11月)になりました。

- 毎日(土・日曜日・祝日・長期休業中も含めて)朝、学級担任に提出する。
- 家庭学習で、宿題以外の勉強で1時間以上取り組んだ内容を、自主学習帳に記入する。
- 教科は、国語・数学・理科・社会・英語の中から取り組み、主にその日授業で学習した内容にすること。
- B5版ノート1ページは必ずやること。
- 忘れた人は、その都度放課後居残り学習をして提出する。
- 居残り学習の監督は、校長・教頭が担当する。



朝、生徒たちは登校すると、自主学習帳を提出します。〔写真左〕

その後、担任が提出された自主学習帳〔写真右〕をチェックし、提出状況を教頭に報告します。

## 取組の趣旨

- 地域との連携を深め、教育効果を上げるために、地域の方々に、食を通して、学校に興味を持っていただき、学校の敷居を低くする。
- 校内見学や授業参加をしていただき、学校の現状を知っていただくとともに、可能な方に学校支援ボランティアに登録していただき、地域の教育力を学校に取り込む。

## 具体的取組

- ① 原則年2回で3年間継続という回数と期間を定めた。その後、公民館にコミュニティーサロンのポスターを掲示し、地域の方にも口コミで広めていただき、参加を呼びかけた。
- ② 23年7月に第1回のコミュニティーサロンを開催し、校内見学と給食試食を行い、地域の方の「モリアオガエル写真展」を見ていただいた。11月は授業参観も行い、学校支援ボランティアの申込書を配布した。
- ③ 11月から、6年生が家庭科授業で地域の方に喜んでもらえる給食メニューづくりに取り組んだ。班ごとに、「小野小発信、おすすめ給食メニュー」として、地産地消や旬の野菜、栄養バランスなどを考慮したメニューを考え、全校児童が日替わり給食として試食し、地域の方に喜んでもらえるメニューを投票で決めた。3月にコミュニティーサロンで、6年生が「おすすめメニュー」を紹介して、試食していただいた。
- ④ 24年度7月に5年生との音楽（合唱）、11月に1年生との懐かしい遊びに参加していただき、子どもたちと一緒に給食を食べていただいた。（11月は6年生の「おすすめメニュー」）
- ⑤ 登録していただいた学校支援ボランティアの方に、ツマグロキチョウ（絶滅危惧種）を守るためのカワラケツメイ茶栽培活動や家庭科の手縫いやミシン縫いの支援をしていただいた。



## 取組の趣旨

- 改まって学校へ相談に来るような話でもないが、学校へ来たついでにちょっと聞いてもらおうかな、または聞いてみたいなという保護者のために、学期末の懇談会の時間に合わせ、保健室を「喫茶井戸端」と名付けて開放し、コミュニケーションを図る場として設定している。

## 具体的取組

## ■実施方法

- **周知方法**：生徒指導便りに「喫茶井戸端オープン」の記事を載せる。
- **会場のセッティング**：テーブル、椅子、湯茶の準備をしておく。
- **対応者**：生徒指導主任、養護教諭、栄養士、校内コーディネーターが対応

## ■実施状況

- **来室数**：毎回4～5人程度
- **相談内容例**：「在校児童の兄や姉（中・高生）の相談」「勉強やしつけに関する相談」「友人関係」「学校生活のこと」「食物アレルギーに関する相談・献立の打ち合わせ」等

## ■成果

来室数は多くはないが、幾人かの保護者が楽しみに「喫茶井戸端」を利用している。気軽に立ち寄って、ちょっとおしゃべりをして帰るという程度ではあるが、このようなコミュニケーションの場を多く設定していくことが、保護者との信頼関係を築いていく上で重要な役割を果たしていると感じている。



食物アレルギーの児童の保護者が、給食の献立についての打合せを栄養士と行っている。

## 取組の趣旨

- 平成 24 年度の全県共通テーマである「『生きる力』を育む防災教育の推進」に向け、地域の人材を積極的に活用し、防災意識の高揚と防災対応能力の育成を図る。
- 本年度から学校運営協議会を設置しており、コミュニティ・スクールによる学校運営の推進と連携強化をめざすとともに、地域と連携した防災教育を推進する。

## 具体的取組

- 1 年生の保護者が、生徒と一緒に登下校をして通学路の危険箇所を点検する「下校体験」を実施し、華西中学校安全マップの作成のために情報を収集する。
- 保護者と教職員、各地区の自治会長、民生委員等による地区懇談会を開催し、通学路の安全点検の結果や下校体験の結果を報告するとともに、各地区における危険箇所等について情報交換を行い、対策を協議する。
- 下校体験や地区懇談会で得られた情報を基に、「華西中学校安全マップ」を作成し、全世帯に配布する。
- KYT 資料を使った危険予測学習に加え、「華西中学校安全マップ」や「防災ハザードマップ（土砂災害編・高潮編）」を活用した防災教育の充実を図る。その際、緊急地震速報について周知するとともに、地域の方から校区内における被災体験を聴く講演会を開催したい。
- 火災や不審者の侵入を想定した避難訓練に加え、高潮や津波等の風水害を想定した防災避難訓練を実施し、生徒及び教職員の防災意識を高める。



## 取組の趣旨

「安心・安全」は、学校経営の基盤である。しかし、それを地域と一体となって担保することは従来は行われていなかった。今年度複数回にわたって行われた地域社会教育諸団体（見守りネット）との協働による防犯訓練は、従来の「安心・安全」を地域という組織の力を借りてより強固にしていこうとする取組である。

## 具体的取組

- ① 防犯訓練計画の提案
  - 見守りネットから不審者対応の防犯訓練が提案された。見守りネットからの不審者情報を加盟諸団体と学校に連絡する。地域では見守り行動をとり、家庭では児童に避難行動をとらせるという計画である。具体的に以下の点を話し合った。
    - ・ 見守りネットによる緊急メールの配信方法の打合せ
    - ・ 学校側の情報の流れの確認（保護者用メールの活用の仕方）
    - ・ 見守り方法（場所・時間・確認方法等）、避難行動の確認
- ② 第 1 回防犯訓練の実施（5 月 26 日（土）午前 10 時に実施）
  - 学校は見守りネットからの連絡を受け保護者用メールで不審者情報を配信
  - 各加盟団体が決められたポイントで見守り
  - 保護者は子どもの所在確認をして学校にその由の返信メールを送信
- ③ 課題
  - 情報を、「どのように提供するか」を吟味する必要があること。
  - 訓練参加者の動きの把握に難点があること。例えば、児童の所在確認返信メールは 63% にとどまった。精度を上げる必要があること。
  - 組織間の意図のずれを調整する場が必要であること。



取組の趣旨

- 地域に根ざした総合型スポーツクラブ「ゆうスポーツクラブ」と連携を図ることで、地域の中の学校（コミュニティ・スクール）としての活動を広げ、地域で子どもを育てる学校の総合力の向上を目指す。
- スポーツクラブとの連携によりスポーツ少年団との関わりや施設の利用、コーチとの協力体制などがスムーズに行える。そのことで部活動全体を活発にし、学校の総合力の向上に結びつける。

具体的取組

- ① 運動部所属生徒全員と顧問教員の会員登録。  
(年会費：生徒 1800 円、顧問 3400 円※保険料込み)
- ② 部活動への派遣コーチ申請。(半数の部活が申請)
- ③ 日常部活動でスポーツクラブの運動施設(ゆうスポーツ文化センター・由宇グラウンド等)を優先的に無料使用。
- ④ ゆうスポーツクラブ主催行事へ学校行事として参加。
  - ・「銭壺山グリーンハイキング」～部活、クラス単位で参加。(4月)
  - ・「YOU・ゆうスポーツフェスタ」～ボランティアとして参加。(10月)
  - ・「ゆうたんビーチレース」～校内マラソン大会として全員参加。(11月)
  - ・その他のクラブ企画イベント～ボランティアとして参加。(年間)
  - ・講演会等への優先的参加。(年間)
- ⑤ 1年生職業講話講師依頼、2年生職場体験学習で活動。
- ⑥ 部活動の活動支援金助成申請(1部活2万円)、横断幕等の費用補助申請。
- ⑦ 教頭の理事登録・月1回の理事会への参加による学校とクラブとの橋渡し。



スポーツ文化センター



銭壺山ハイキング



ビーチレース

取組の趣旨

- 地域と一体となった、地域に貢献する学校づくり、社会に貢献する職業人の育成
- PTA活動、外部人材等、地域力の積極的な活用による職業教育や人材育成の実践

具体的取組

PTAと進路が一体となった「キャリア教育総合支援システム委員会」(仮称)の設置に向けて  
4つの観点別能力養成へ向けた具体的取り組み

①人間関係・社会関係形成 ②自己理解・管理 ③課題対応 ④キャリアプランニング

- 面接指導 → PTA 役員による模擬面接の実施
- インターンシップ → 北浦地域の実社会(会社等)での職業体験の実施
- 進路説明会 → 専門的業者や進学・就職別分野別現状説明会
- 卒業生講話 → 本校卒業生による進学・就職別実体験講話

地域社会連携	産業界連携	学校間・異校種間連携	家庭・保護者連携
ジョブシャドウ ボランティア	月間職場体験 行政支援プログラム	小中・中高・高社会への キャリア教育支援システム	地域行事、社会参加 家事分担

➡ 各界各層との連携による実践的職業教育の推進を目指す。